



立山黒部ジオパーク  
大自然の中で水循環を学ぶ公園

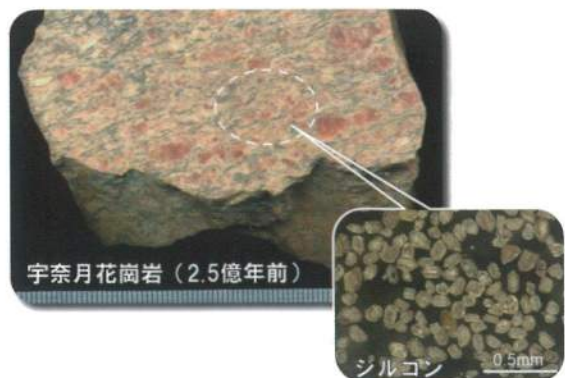
国立大学法人富山大学 大学院理工学研究部  
教授 竹内 章

2014年9月27日、長野県伊那市において日本ジオパークネットワーク加盟認定書授与式があり、それに先立ち日本ジオパーク委員会から3点の認定理由が伝えられました。(1)まずは、富山県東部固有の観光資源として、北アルプスから富山湾に至る山・雪・川・扇状地・海を結ぶ壮大な水循環を学ぶことができる点、(2)加えて、氷河、ライチョウ、高山植物、立山信仰、砂防・治水、電源開発の歴史、湧水群など特徴ある人々の暮らしの関係が息づいている点と、(3)運営体制が日本初の民間主導型であり、日本のジオパークで新たな運営モデルになる点が評価されました。

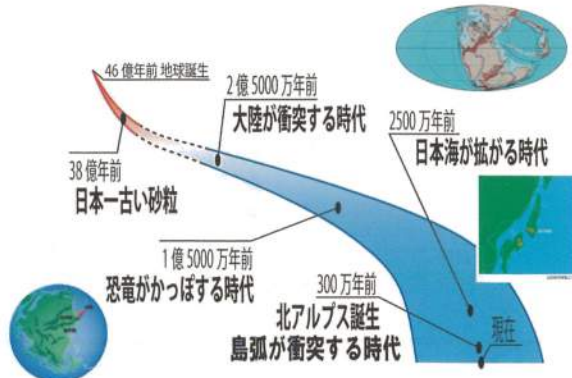
呉羽山丘陵以東の富山県東部9市町村からなる立山黒部ジオパークは、南と東を飛騨山脈立山連峰および後立山連峰、北を日本海富山湾で囲まれ、神通海脚、黒部川扇状地、親不知海脚などの海底地形を含みます。この範囲が大自然のまとまりであり、立山黒部圏とよびます。例えば、神通川以東の水質は同じ立山黒部系統で以西の庄川系統とは異なります。また、自然界の水文地文だけでなく人文社会的にも明治16(1883)年の富山県置県以前の石川県新川郡に相当し、人びとは一つの生活文化圏をつくりだしています。

「立山黒部」の名称は、黒部川と常願寺川のコントラストであり、立山連峰・後立山連峰の森林相を象徴する立山杉と黒檜(クロベ)も表しています。「圏」は、日本海から本州に運び込まれた水蒸気が多量の降水に変わる飛騨山脈の古称立山と、山脈南端の三俣蓮華岳付近を源流とし黒部峡谷を経て日本海に張り出した扇状地をつくる黒部川、これらを結ぶ壮大な水の循環に因んでいます。

黒部川と常願寺川はともに、世界屈指の降水積雪量の立山連峰に源を発し、下流に扇状地を有します。その水は農業を支え電力を生み、人々の生活を潤しています。反面、山岳地帯の崩壊地から押し出す土砂は、霞堤に象徴されるような水防の闘いを人々に強いてきました。そもそも富山県置県のきっかけは治水砂防事業の財源確保であり、その根本は安政5年飛越地震の齟崩れが原因です。この地震は、1858(嘉永7)年11月に起きた南海トラフの海溝型巨大地震に誘発された内陸活断層地震です。飛越地震の被災地・新川郡は、石川県から分県する過程で復興を果たしてきた経緯があります。富山市中心市街地のいたち川沿いに並ぶ水神社や地蔵尊は、官民(藩民)一体で震災から復興に成功した象徴でもあり、防災教育の重

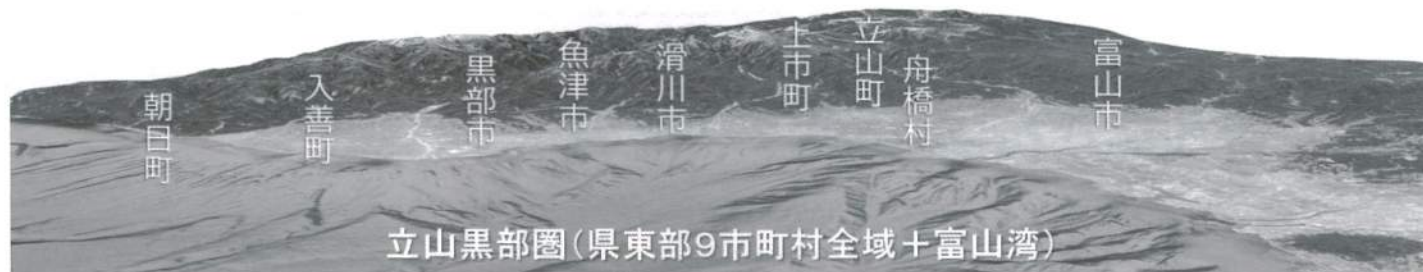


石の記憶、38億年前の砂粒



立山黒部圏の生い立ち

立山黒部圏の眺望



立山黒部圏(県東部9市町村全域+富山湾)

面積:陸域2,769km<sup>2</sup>+海域1,135 km<sup>2</sup> 人口63万6千人

要なコンテンツなのです。

日本列島の大部分は、太平洋側にある海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込むときに、海洋地殻の上にたまった堆積物が剥ぎ取られて徐々に重なってできた付加体という地質です。しかし北陸は、大陸の断片から成り立つ独特な存在です。とりわけ立山黒部圏は、3000m級の急峻な立山連峰と水深1000mを超える富山湾に囲まれた臨海扇状地という独特の地形を舞台に、人々が生活を営む土地柄です。海と山が凝集する立山黒部圏は、3億年前に起きた大陸衝突の痕跡や、1億年前の火成活動に逃げ惑う恐竜の足跡など、さながら地球の百科事典です。ここではさらに、大自然の恵みと幸、氷河、ライチョウ、高山植物、立山信仰、砂防・治水、電源開発の歴史、湧水群など特徴ある人々の暮らしの関係が息づいています。

「富山を歩けば地球がわかる」「富山の自然は宝物、世代を超えて受け継いでいく」「つなぎ、育む、ふるさと富山のジオパーク」を合言葉に、民産官学が深く連携して「伝え・守り・活かす」これが「地球の公園」立山黒部ジオパークのコンセプトです。とりわけ圏内各地区で取り組まれてきた様々なガイド活動を通して、地域間・世代間をつなぐ取組

みが急務です。そのため平成27年3月4日付けで一般社団法人立山黒部ジオパーク協会(設立、推進協議会から移行)が設立されました。

ジオパーク事業の支柱は教育・学習、ジオツーリズム、保護・保全の循環にあり、当協会ではとくに教育や調査・研究に重点を置いています。

富山県内では、福井県恐竜博物館のような大規模展示施設はありませんが、多様な特色をもった中小規模の展示施設が各所に散在し、12のジオエリアのジオツアーの拠点になっています。これからは、展示施設どうし、ジオサイトどうしを結びつけていくことが重要です。

さらに重要なのは、訪れる人にジオサイトの「存在や良さを知らせる」ことです。民産官学を問わず、立山黒部ジオパーク圏内の展示施設や観光関連施設がお互いのことを「紹介して知らせる」しくみづくり、見どころとなるジオサイト以外の観光関連施設との連携が大切です。これらの課題を着実に実践し実績を積み上げることが、4年後の再審査を見事クリアし、世界ジオパークへの推薦を受けることにつながると考えています。



高低差4,000mの水循環



黒部峡谷に下る小窓氷河